



赤門にして東大に非ず  
 東京大学・赤門

最近、テレビのクイズ番組でも人気になった「東大生」。ヒツトしているが、昔も今もあこがれの東大生たちであることは言うまでもない。

「赤門」の横に、大きく育った銀杏は風景印としても有名だ。

「東京大学」といえるべきなのは残念だ。掲載の写真は、構内から本郷通り側を写したものである。風景印の方の写真は絵葉書にもなっているが、こちらは銀杏が写っていない。

東京空襲（くうしゅう）にも残った東大の「赤門」。重要文化財でもある。ここは、加賀藩の領土で高台にある。私見であるが、東

小・中学生のころ、



銀杏の木がトレードマークの赤門  
 (校内から道路側を写す)

め、今は自由に出入りできないのは残念だ。職業に就こうかいろいろ考えたのは私だけではない。父親が教師をしていたので、仕事は学校の先生。大学は東京大学に入るのを夢見た。東大に入学はできなかったが、

なかつたが、

四年間、東京

で過ごした。

上京して、最

初に訪れたの

が「東大の赤

門」である。

東大と赤門は

どんな関係があるのか、長い間疑問を持っていた。行ってみると真紅の門がまえて驚いた覚えがある。赤



東大正門前を描く本郷局の風景印

り、弁当や東京大学のロゴ入りの品物をたくさん売っていた。

ボールペンやペンのような学用品から、まんじゅうや夏目漱石の三四郎のワインまで売っているのは目を丸くした。多勢のバスツアー客が買い物のために並んでいた。

その時、私も行列に加わり買い求めたマグカップとペンケースは今もある。ワインも買ったがもう飲んでない。

日本の将来を荷負（にな）う人材を育てる東京大学は、昔も今のあちこち回れたが、東京大学見学のコースが組み込まれているのもあり、バスで東京大学構内に入れた。構内にはスーパーマーケット並の売店が2軒もある。



道路側から見た赤門